復興庁
Reconstruction Agency
復興・創生　その先へ

ハイレベル・セッション資料

復興庁
福島広域まちづくり班

【復興庁リビングラボ】　「アウトリーチによる企業間連携の促進」のご提案(アイデア)

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
ORICONSUL

行政支援・インフラ

・ドラレコを活用した道路状況調査

ゼンリン

フジタ

・ドローンを活用した緑地管理手法

Ⅰ.広域的なプラットフォーム

・「インフラ群」のマネジメント

OC、NTT-ME、NTT-IFコンソ

・3D都市モデル、データ基盤
・ユースケース
（インフラ、まちづくり）

Ⅲ.行政サービスの高度化、インフラの質の向上

防災まちづくり

ウェザーニューズ

・LINEチャットボットによる防災・避難活動支援
・情報プラットフォーム

DeNA

・MR技術を活用した防災教育

Ⅴ.ナラティブ

・アントレプレナー人材の発掘、育成
・実践TIPS、共有＋地域づくりの加速

Ⅱ.デジタルサンドボックス

・事業の検証・効果計測

Ⅳ.住民参加型のまちづくりの促進

・官民共創まちづくり（エンドユーザーの視点）
・シビックプライド醸成、オプトインによる情報共有

市民サービス

URシステムズ

・ChatGPTを活用した行政窓口支援
・市民サービスの向上

パナホームズ

・居住環境支援
・地方創生、エリマネ

DNP

・データ基盤、AI
・モビリティ
・プロマネ・・

国際航業

・データ駆動型PF
・API連携、物流支援

首都高技術

・防犯パトロール

NTTデータ研

スモールスタート

アジャイル・アプローチ

事業の持続性（マネタイズ）

サービスの質の向上

エリア拡大

浜通り版のスマートシティ

スマートシティの実現に向けたユースケース

ビジネス連携、地域連携、データ連携・・

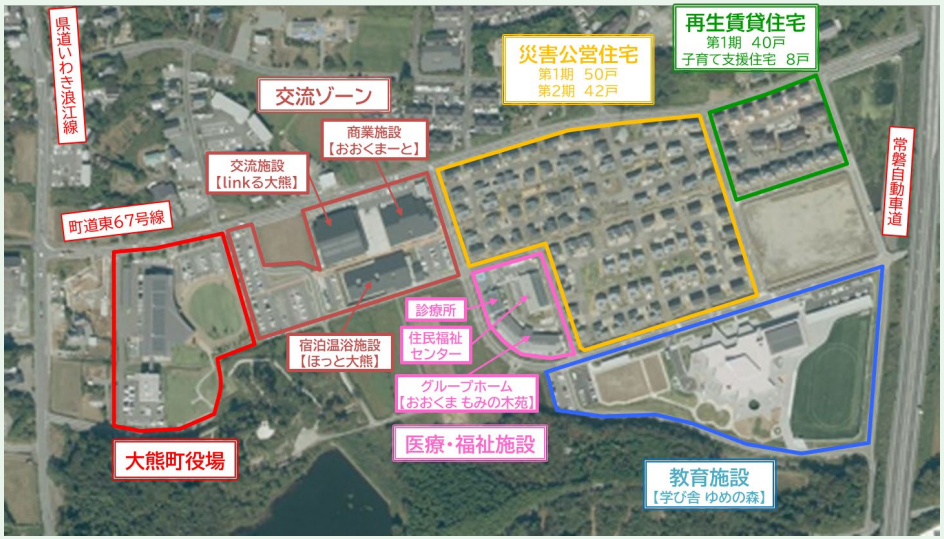
復興庁、自治体、F-REIをはじめとする地域の関連企業

注）掲載内容は、あくまでもイメージ。令和6年4月提出資料を加筆・修正

大熊町について

大野駅周辺・下野上地区の現在の様子
（2023年11月上空より撮影）

JR大野駅西交流エリア　完成イメージ図



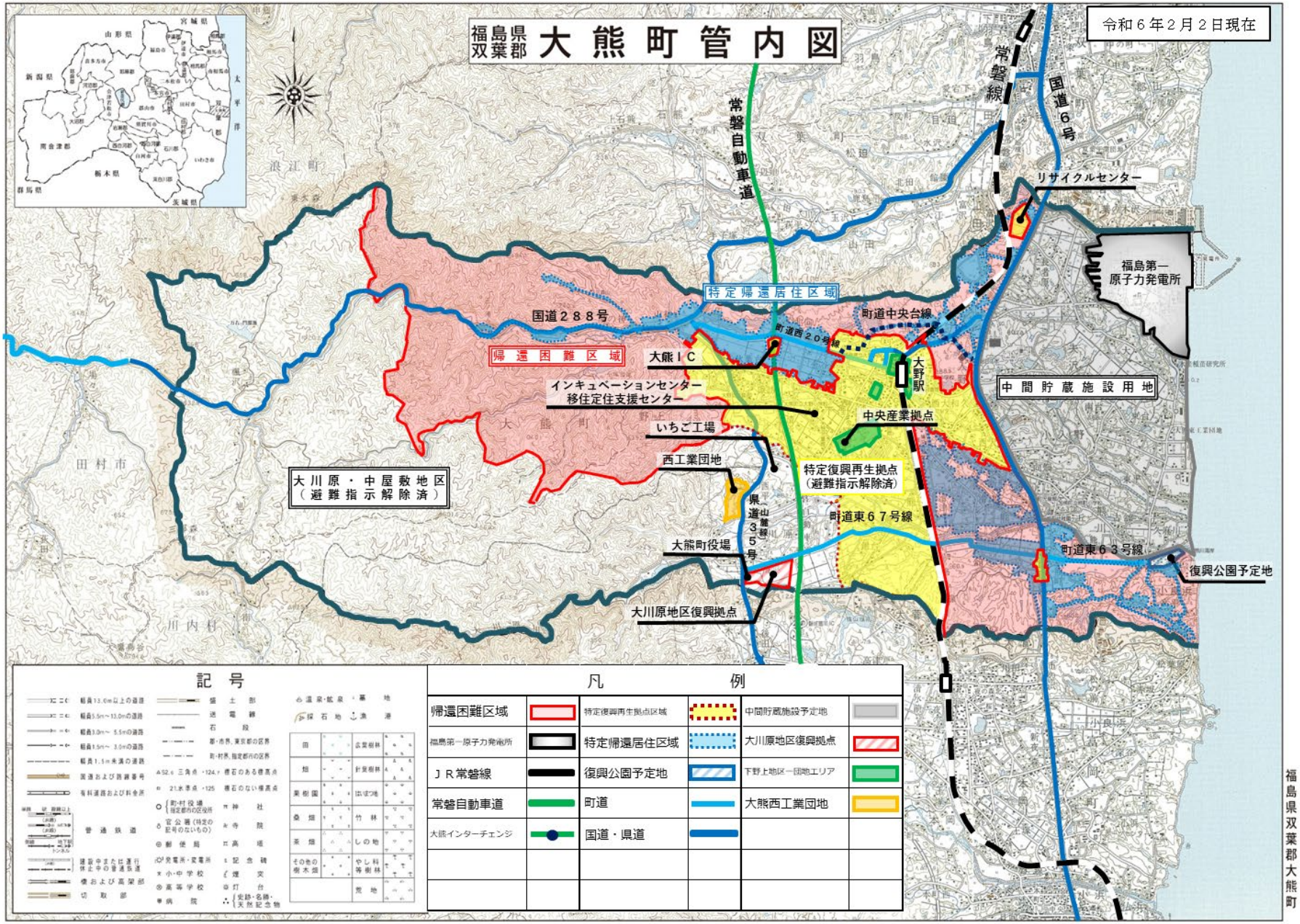
大川原地区復興拠点

大川原地区復興拠点の施設	備考
大熊町役場新庁舎	2019年5月業務開始
災害公営住宅	2019年6月入居開始
再生賃貸住宅	2019年10月入居開始
再生賃貸住宅 （子育て支援）	2023年4月入居開始
医療・福祉施設	認知症高齢者グループホーム、 住民福祉センター
交流ゾーン	2021年10月グランドオープン
学校教育施設	学び舎　ゆめの森 2023年8月使用開始

この地図は国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。
(承認番号　平30東総、第25号)

福島県双葉郡 大熊町管内図

令和６年２月２日現在



福島県双葉郡大熊町

平成30年11月

1: 50,000

東日本総合計画株式会社調製

「浜通り復興リビングラボ」に期待すること

買い物環境

町内のスーパーマーケットが不足
⇒スーパーマーケットなどの誘致を進めている

医療環境

町内には週2回の診療所のみであり医療機関が不足
⇒県立大野病院の後継機関が再開予定

スーパーマーケットや病院・薬局が開業するまでの
補完サービスの提供

交通手段の確保

町内のタクシーや民間バスの事業者が不足
⇒生活循環バス（２コース）を運行中
デマンド交通の実証事業も開始予定

町内のあらゆる場所に居住している町民の
移動手段が確保できるサービスの提供

confidential

ZENRIN

第３回「浜通り復興リビングラボ」シンポジウム

2024年６月19日
株式会社ゼンリン

Maps to the Future

ドライブレコーダーを活用した地図メンテナンスの共同研究（GO株式会社×株式会社ゼンリン）

ZENRIN MoT
PRESS RELEASE

2022年５月10日
株式会社ゼンリン
株式会社 Mobility Technologies

ゼンリンと MoT
３万台のドライブレコーダー映像を活用した地図情報メンテナンス
全国の高速道路にて試験運用開始

GO（株）のドライブレコーダー（DRIVE CHART）のデータを活用することで、当社の地図データとの差分をAIで検知し、地図を整備をすることで、より鮮度の高い地図情報の提供を目指す。
※高速道路の標識においては既に運用中

2022年5月10日 プレスリリース資料抜粋

契約台数３万台以上！『DRIVE CHART』搭載車両が
全国の高速道路の約９割を１ヶ月で走行

本プロジェクトの特徴である、高鮮度な大量の道路情報データは、MoT が展開する次世代 AI ドラレコサービス『DRIVE CHART』(https://drive-chart.com/)によって収集されています。現在、全国３万台以上のタクシーやトラック、営業車で契約されており、全国の高速道路(高速自動車国道および自動車専用道路)の総距離約３万 km のうち約９割を１ヶ月で走行する網羅性を有しています※。
※データ活用に許諾頂いている事業者データのみを利用

DRIVE CHARTの搭載車両により
全国の高速道路の約9割を網羅

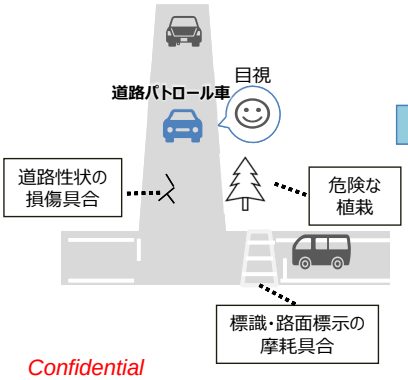
浜通り復興リビングラボで取り組んでいること

昨年度：浪江町様、双葉町様、大熊町にて実施

町を走行している車両のドライブレコーダー画像の情報を用いて、道路維持管理業務効率の向上に資する取り組み

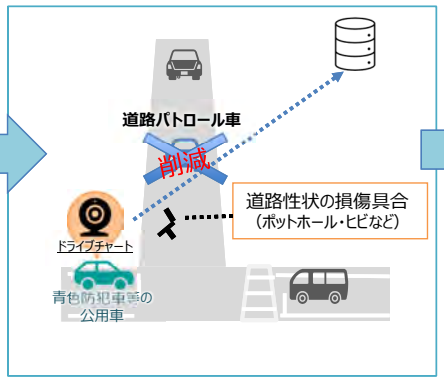
現状

✓ パトロール車
✓ 目視での検知



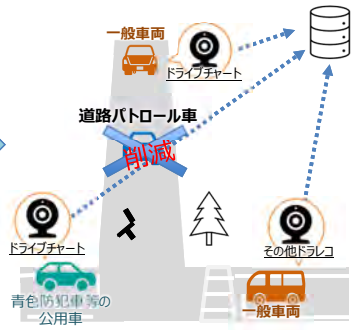
中期的目標

✓ パトロール車以外の公用車
✓ ドライブチャート画像・AI検知



将来目指す姿

✓ パトロール車以外の公用車、一般車両
✓ ドライブチャートや他のドラレコ画像・AI検知*

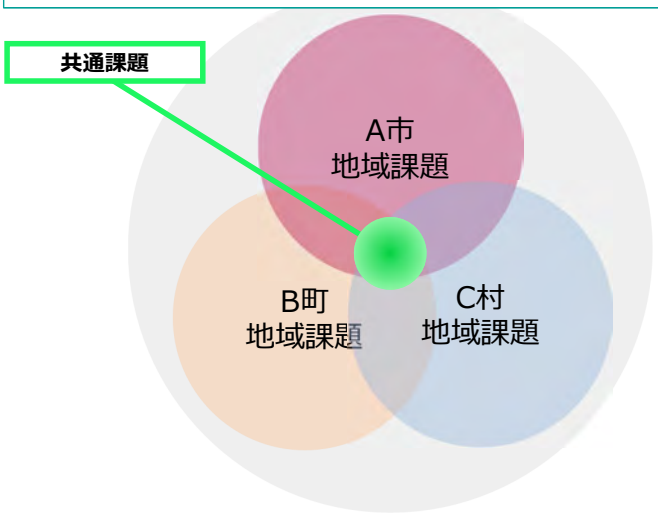


*2024/6/19時点の構想案となります

Confidential

浜通り復興リビングラボを通して、道路管理における共通課題を明確にする

地域それぞれが抱えている課題→複数自治体の共通課題の明確化



「浜通り地域」をスタートとして、各地域へエリア拡大

Confidential

ZENRIN

リビングラボシンポジウム資料

リビングラボで地域をどう変えていくか

令和6年6月19日

川内村長　遠藤　雄幸

川内村の「光」と「影」

「光」
復興の進展

・生活環境の回復
・インフラ整備

※帰還率：83.1%
（2024年5月1日現在）

「影」
止まらない限界集落化

・人口減少＋超少子高齢化
・こども、若い子育て世代の帰村が進まない

※人口減少：2011年：3,028人
→2024年：2,254人
※高齢化率(村内生活者)：51.41%
（共に2024年5月現在）

⇒復興はいまだ途上。創生（未来志向）に向けて取り組みを進める。

川内村の課題

行政課題

- 人口減少　・少子高齢化
- 若い世代の帰還の少なさ
- 交通環境が脆弱
- 村外に流出するお金・人材
- 高い行政依存度　・被害者意識

女性目線の生活課題

- 買物環境不足（スーパー・薬局がない。コスメやカフェがない）
- 入居したいような住宅が少ない
- 村内の娯楽不足　・病院は隣町・市まで
- 交通安全面の不安

川内村の課題解決に向けて

住民共創の村づくりとして「未来デザイン会議」

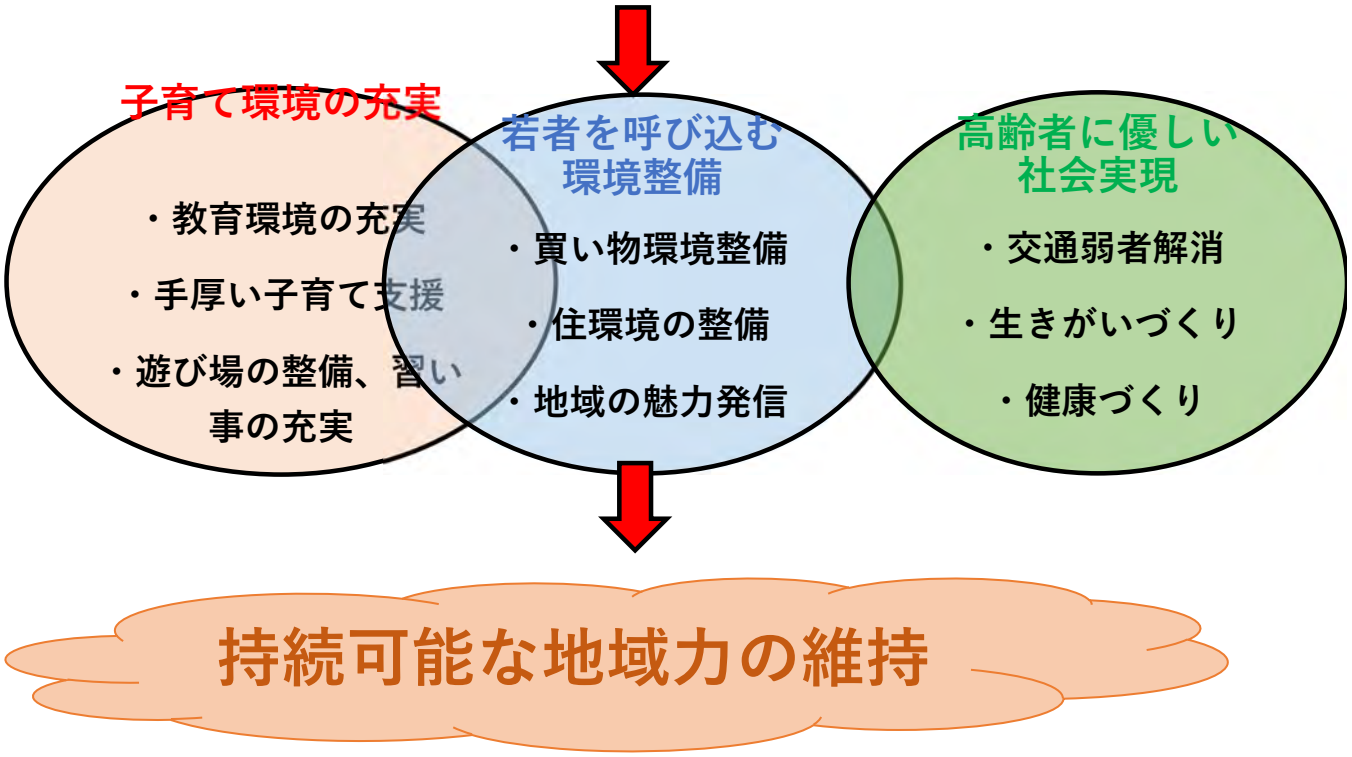
課題解決の打ち手

- **フォルケホイスコーレ事業（交流人口増加・仕事・教育などの課題から）**
- **空き家利活用事業（空き家活用・交流人口増加などの課題から）**
- **図書館整備事業（教育・子育てなどの課題から）**

リビングラボへの期待

＜復興リビングラボ＞

内発的な取り組み　×　企業の知見・経験



持続可能な地域力の維持

復興庁
第３回「浜通り復興リビングラボ」シンポジウム

ハイレベル・セッション

創造的復興･魅力ある「ふるさと」づくりに向けて
～リビングラボという挑戦～

国際航業

呉 文 繍　Sandra Wu, Wen Hsiu
国際航業株式会社　代表取締役会長

2024/6/19

より良い復興（Build Back Better）に貢献し、発信することが私の使命

グローバル・プラットフォーム会合2011
ジュネーブにて　©UNDRR

国連の会議で発信

第３回国連防災世界会議
2015　仙台にて

被災者との交流の場をアレンジ

国連防災世界会議の視察ツアーで、外国人参加者が仙台市田子西復興公営住宅を訪れて、住民と交流する機会をアレンジ　2015年

Copyright © Kokusai Kogyo Co., Ltd. All Rights Reserved.

国際航業の浜通りでの実績例

飯舘村の復興事業

浪江町役場本庁舎のZEB化

福島県浪江町役場本庁舎のZEB化（ZEBランク：NearlyZEB）

ZEB PLANNER
ZEB2019P-00029-C

Nearly ZEB認証取得！

Copyright © Kokusai Kogyo Co., Ltd. All Rights Reserved.

国際航業のリビングラボでの具体的提案
「ドローン物流等」による生活環境の向上を目指す！！

人流クライシス

中山間地域での移動が困難に・・・

物流クライシス

ドライバ不足で配送が困難に・・・

3Dデータを活用した
ドローンや自動車による物流効率化

Copyright © Kokusai Kogyo Co., Ltd. All Rights Reserved.

国際航業の提案のコンセプト

国際航業提供
空間情報プラットフォーム

デジタルツイン構築
（３Dデータ）

×

パートナー企業の提供サービス

- 物の配送
- 交通手段(Maas)
- インフラ管理
- エネルギー管理
- まちづくり、防災計画
- 様々なサービス

→

生活環境の向上

- 住む(住宅)
- 出かける(交通)
- 学ぶ(教育)
- 癒す(医療)
- 楽しむ(買物・娯楽)

Copyright © Kokusai Kogyo Co., Ltd. All Rights Reserved.

情報をつなげる力で、
人・社会・地球の未来をデザインする

国際航業

第3回　浜通り復興リビングラボ
～サイエンス×官民共創まちづくり～
シンポジウム

F-REIが浜通り復興リビングラボに貢献できること

福島国際研究教育機構
Fukushima Institute for Research, Education and Innovation (F-REI)

浜通り復興リビングラボ宣言

令和5年度第2回
シンポジウム開催結果より

みんなで　つくっていこう
魅力ある「ふるさと」を目指して　チャレンジする浜通り

Co-creation（共に）
地域課題の解決に向けて
産学官民の多様な主体による
パートナーシップ形成や広域連携を促進し、
新たな価値を共創する

Innovation（新しく）
異分野の連携、デジタルとリアルの融合、
最新のテクノロジーの活用など、
失敗を恐れず挑戦し、イノベーションを創出する

Inclusion（みんなで）
昔からの住民も、新しい住民も、
多様なバックグラウンドを持つ人が
一緒にワンチームで地域をつくる

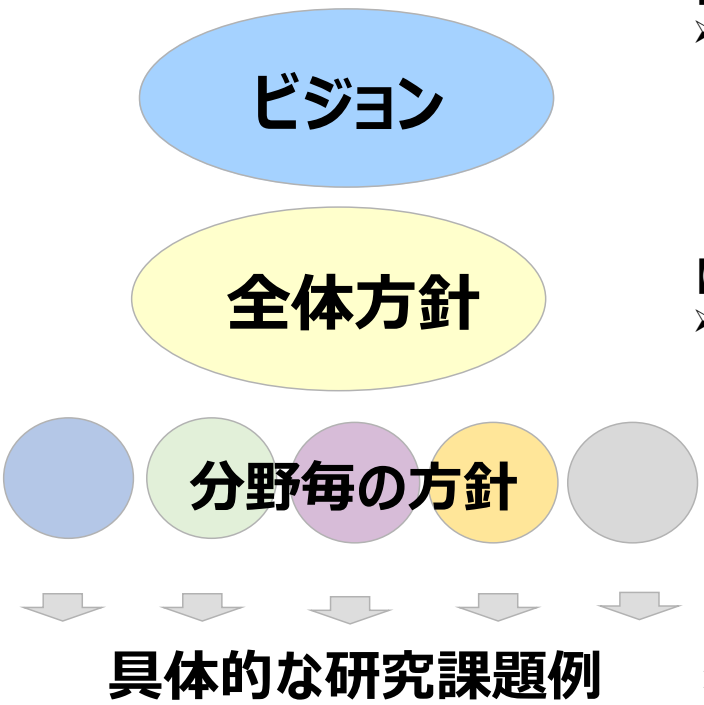
Well-being（幸せ）
これまで育まれてきた自然・文化など、
地域の個性や特色を大事にしながら、
新しいものも取り入れ、生活を豊かにする

Sustainability（いつまでも）
創造的復興、持続可能な地域社会を実現し、
魅力ある浜通りを次世代の若者や子どもたちに引き継ぎ、
全国・世界にも発信していく

浜通り地域等15市町村×浜通り復興応援ビジネスネットワーク×復興庁

F-REIの骨太の方針

政府文書等を踏まえつつ、F-REIとしての研究課題の設定に当たっての方針をまとめたもの



【ビジョン】

➢F-REIは、福島をはじめ東北の復興を実現し、夢や希望となる創造的復興の中核拠点となって、世界水準の研究推進とその研究成果の社会実装・産業化をリードし、我が国の産業競争力を世界最高水準に引き上げ、経済成長と国民生活の向上に貢献する。その実現に向け、骨太の研究基本方針に基づく研究課題を推進する。

【全体方針】

➢福島の複合災害からの創造的復興のフラグシップを掲げるF-REIの研究基盤として、**放射線科学**（核物理学、放射化学、放射線環境科学、核医学・創薬、電子デバイスなど）の利活用や**放射能汚染環境の動態計測**に関する研究課題を基盤に据えながら、**ロボット・ドローン技術**や**次世代農林漁業**及び**クリーンエネルギー**など福島浜通りの産業創生を牽引する最先端研究を推進し、日本を代表する世界水準の研究拠点形成を目指す。

【分野毎の方針】と【具体的な研究課題例】

➢ （次頁以降に記載）

第５研究分野：原子力災害に関するデータ・知見の集積・発信分野

F-REI（福島）で研究開発を行う視点

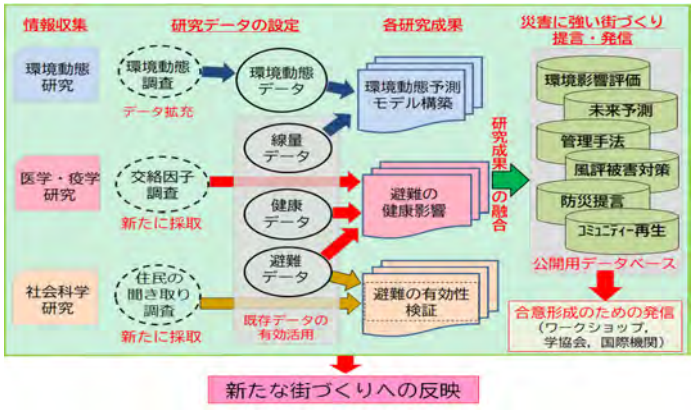
- 福島の複合災害から発生する様々な**データを集積**し、**知見を伝承**することで、来るべき今後の災害への対策に資するとともに、**<u>まちづくりに貢献</u>**する

分野の方針

- 森林の植生、土壌など放射能汚染からの環境回復にかかる**環境動態計測**の**継続**と**データベース**の構築、それらの**情報発信**と、コミュニティの合意形成を促進する**社会科学的研究**を推進することで、**未来の活気あるまちづくりに貢献**する。

具体的な研究課題例

- 放射性物質の環境動態研究
- 関連機関、地域に存在する関連データの集積とデータベース化
- 複合災害に関する社会科学的知見との融合による情報の高付加価値化
  - ✓ 環境影響評価、将来予測、防災のための伝承
- ワークショップや国際連携による提言と発信
- 地域と一体となった長期的復興・再生まちづくりへの展開



原子力災害に関するデータや知見の集積・発信

第5分野の骨太の方針

（これまでの骨太の方針）
森林の植生、土壌など放射能汚染からの環境回復にかかる**環境動態計測**の**継続**と**データベースの構築**、それらの**情報発信**と、コミュニティの合意形成を促進する**社会科学的研究**を**推進**することで、**未来の活気ある街づくりに貢献**する。

（これからの骨太の方針）
原子力災害の**被災地**において**自然環境**や**地域社会**について**調査**と**分析**を行い、地域の**安全**を実現するための**科学的知見**の**蓄積**と**発信**を行う。あわせてF-REIの成果を活かして、地域の活性化と**コミュニティの合意形成を推進**することで、**人々が共生するレジリエントなまちづくりに貢献**する。

第3回　浜通り復興リビングラボ
～サイエンス×官民共創まちづくり～
シンポジウム

F-REIを核とした浜通り地域等の広域連携による波及効果

福島国際研究教育機構
Fukushima Institute for Research, Education and Innovation (F-REI)

F-REIを核とした浜通り地域等との広域連携による効果波及

基本的考え方

◆新機構F-REIの事業は、**浜通り地域等を中心**に復興に取り組む地域全体（福島県全域→被災地全体）の「**創造的復興の中核拠点**」なり、その効果を全国へと**広域的に波及**

◆機構が取組む５分野に関連する**既存の研究拠点や教育機関等のシーズ**を拾い上げ、「**世界でここにしかない多様な研究・実証・社会実装の場**」**を実現し、国際的に情報発信**

◆地域の市町村や住民、企業・団体等との間で様々な形の**パートナーシップで連携**、地域における**産業の集積**、**人材の育成**、暮らしやすい**まちづくり**等を進め、**福島・東北の創造的復興**、さらには**日本創生を牽引**

（機構を核としたパートナーシップによる事業展開のイメージ例）

自律的に作業する農機制御など スマート農業技術の研究開発
市町村・農家等 ⇔ とのパートナーシップ
浜通り地域等の農地を実証フィールドとして活用
⇒ 福島県全域・全国への拡大
若者から高齢者まで誰もが取り組みやすい 超省力・高付加価値で持続可能な先進農業を実現

電力を水素として高効率に貯蔵利用するP2Gシステムの開発
*P2G = Power to Gas ⇔ 市町村・事業者とのパートナーシップ
「次世代スマートシティ」実証地区を浜通り地域等に構築
⇒ 福島県全域・全国への拡大
モビリティを組み合わせ、福島型スマートシティモデルを展開

困難環境でも活用可能な強靭・精密なロボット・ドローンの研究開発
⇔ 市町村とのパートナーシップ
浜通り地域等の自治体との連携による実証等
⇒ 福島県全域・全国への拡大
自然災害や人手不足に影響されない豊かで安心な社会モデルを実現

CO2吸収に資する植物の評価等ネガティブ・エミッションのコア技術の開発
市町村・事業者等 ⇔ とのパートナーシップ
未活用地等を有効活用して実証規模での検証等の推進
⇒ 福島県全域・全国への拡大
カーボンニュートラル社会を実現

革新的ながん治療を可能とするRIの医療利用のための研究開発
大学・研究機関等 ⇔ とのパートナーシップ
大学・研究機関等と連携した臨床試験の実施等
⇒ 福島県全域・全国への拡大
革新的なRI医薬品により健康・　長寿社会の実現に貢献

・・・など